

## 第16回TNVN総会後の 情報・意見交換会で現況が!!

第16回TNVN総会を2009年4月26日(日) TVAC(飯田橋)で開催しました。総会后、情報・意見交換会を開き、各地域で活動をしている18名の方から現在各教室が抱える共通的な課題が多く出されました。

### ●活動から●

日本語能力がゼロレベルで、日本語が分からない生活者としての外国人学習者に対応する機関・施設が少なく、多くの方が教室を訪れてきます。週1回の教室では日本語を十分に習得できませんが、行政にはとても期待できず、受け入れています。

日本語教育は公的な場で公的な機関によって保障されるべきであるにもかかわらず、その状況は改善されていないのが現状です。ある行政は交流協会に任せ、有償で対応しています。また、子どもへの対応を人材会社等に委託などの形も現れています。

総務省や文化庁などから答申等が出されていますが、わたし達には変化は見えません。原因は行政の仕組みか、他にあるのか、行政の動きも含め日本語ゼロレベルの人達への対応について再認識しました。

### ●人材育成：世代交代●

ボランティアの高齢化や世代交代に対応していくことも大事です。ボランティアの確保は大きな課題です。中には企業への働きかけを行っている団体もあります。

ボランティアの養成には養成講座やスキルアップ講座などが開かれていますはまだ不十分です。また、募集、研修内容、配置がポイントです。ボランティアは団体の活動全体を通して約束事を重視するなど、社会に対する役割を深めてもらう必要があります。

日本語ボランティアはノウハウやスキルがないとボランティア精神だけでは厳しいものがありますが、大事なことは長続きし、辛抱強く、人が好きであることです。

ある区では、これまでの日本語ボランティア育成の位置づけを変えてきています。初期は「日本語を教える」ことに講座内容の比重をおいていましたが、現在は講座数も減り、教えるのではなく「伝える」とし、隣人として助け合うこととされ、「教育」という言葉も「学習」というふうに言い換えられています。

### ●行政との距離●

会場使用の困難さをはじめ、日本語教室の活動状況を把握していない行政に対し、ボランティアは不満を抱いています。

行政は横並び傾向が強く、他より一歩前へが難しく、後追い施策となる場合が多いです。講習会を私たちが独自に開催するなど一歩前へ、そして行政にも一歩前へと進んでもらうなど、常に問題点や課題を訴え続けていく必要があります。

### ●多文化共生にむけて●

多文化共生と言われながら中身は変わっていません。在住外国人を審議会委員に委嘱したり、国際交流のリーダーに起用し、料理教室などを開く、行政の試みも見受けられますが、多くは看板のみの状況です。

区・市のホームページで検索しても日本語教室をなかなか探し出せません。国際交流といえば国内に多くの外国人が居るにも拘らず、まだまだ国外に顔が向いています。

日本語ボランティア教室には資金面で活動が制約されているところが多いです。

外国人支援団体への助成金のあり方には大きな疑問を感じています。

国際結婚が多くなり、在住外国人・なかでも子どもへの支援が増しているなか、日本語ボランティアの役割は今後も大きく、活動は続きます。

TNVNの活動では多くの課題を浮彫りにしながらシンポジウムの開催などを検討していきます。

[編集部]



# 国境をこえた医療福祉従事者と地域の住民運動

寄稿

春原 憲一郎

(財)海外技術者研修協会理事兼AOTS日本語教育センター長



## 世界がびりびりしていませんか？

生み生まれ、育て育ち、教え教えられ、稼ぎ養い、看取り看取られ、死を悼み悼まれる、誰もが迎える人生の道程を安心しておくれる社会に向かっているのでしょうか。

今、イエと国が揺らぎ自己責任論と能力主義がむきだしの競争社会を作りだそうとしています。専業主婦（主夫）志向の高まりは結婚が最終就職ではないという厳然たる認識から派生したものです。グローバルに加熱する学歴主義と資格社会は、多元的な能力を個人に要求しています。能力主義は、悩む力や結婚力など、すべてを「力」に還元しようとしています。

しかし老いること、病むこと、傷つくこと、そして死すこと...、私たちは例外なく平等に弱さを抱えています。力をめざし求める志向はかならず敗れます。このことはどんな社会を作るかというテーマを議論するときにとっても大切なことです。人生勝ち組だけが豊かな暮らしができる制度は、つねにホームレスやワーキングプアを必要とし、隣人を出しぬき、勝ちのこるためにびりびりした世間を生みだします。

## 人口問題—人口の爆発と少子高齢化

都市化や医療の進歩による人口の爆発は食糧、エネルギー、環境問題を引き起こしています。一方で、結婚や家制度の解体、高学歴化に伴う教育コストの増大、女性の自立化は先進国・地域において少子化と生産人口の減少につながっています。

少子高齢化と人口爆発という相反する二つの現象は人の移動の大きな動因となります。生産人口を補うため、結婚や介護を担うために地球規模で、送りだし圧力と受け入れ圧力が国境をこえてせめぎ合っています。農業、漁業、そして製造業、多くの産業は自

動化することでコストを削減し、人手不足に対応してきました。暮らしにおいても家事や生活の様々な部分も自動化、機械化、外注化してきました。

ただ、いくら自動化が進んでも、機械化できない部分が残ります。そのひとつがケアです。<嫁>という家庭内介護要員でまかなえなくなり、国内の要員で外注化する。それが2000年の介護保険制度です。しかし国内でもまかなえなくなれば、台湾、香港、シンガポールなどの外国人介護要員受け入れ先進地域のように、人為的な国境線は水位を変えます。介護や看護、そして結婚という分野は国際的とか多文化的という表現では間にあわない、そもそも国籍や文化という発想さえもこえた、むきだしの生が、むきだしの弱さがぶつかりあう世界です。

## 腰が痛くなるということ

腰やひざが痛くなるとひとはこころもからだも弱るものです。育児や介護という関節に負担のかかる仕事はできるだけ多くのひとの手で分担したほうがいいと思います。外国籍の人たちの基本的な人権の侵害や存在の無視も国家規模でのDVやネグレクトといっていでしょう。生み育て看取り悼むというケアに関することは、家単位に、国単位にも押しこめない、できるだけ広く開かれたひとの力を集め、分け、使い、おこなうことが具体的には腰が痛くなることをいっくらかは避ける道すじではないでしょうか。

世話やケアすることを家や国を越えて分有できる、そのような仕事が誇りと普通の暮らしを保証する社会をめざしたい。家庭のなかにも、地域にも国内にもさまざまな価値観やことばを使うひとたちが現実にいるし、これから一層そうなるのは望ましいことで、そのような地域を作っていくのは何より当事者である住民一人ひとりの日常の意思と行動だろうと思います。

# 日本文化は、 技術や暮らしの 知恵にある

日本文化体験交流塾

米原 亮三

南仏の小都市オランジュでは、約2,000年前に建てられたローマ劇場が今も残り、夏には毎年、芸術祭が開催されている。また、ヨーロッパ各地を旅すると、各地で古く美しい町並みが残されている。

これに対し、日本の都市では、頻繁な建て替えにより、伝統的な建築物が減少しつつあり、とりわけ東京は、震災などもあり、景観面での魅力に欠けると指摘される。しかし、日本には、物にとらわれない伝統に根ざした素晴らしい技術や文化が多くある。

どの民族にも、自然環境に適した暮らし方がある。エスキモーは、氷で家を作る。モンゴル人は、パオで移動しながら暮らす。日本人は、豊かな森があり、木と土と紙で家を作った。日本家屋は、高温多湿の気候でも暮らしやすくできている。しかし、日本の木造建築は、燃えやすく、災害にも弱いので、建物自体の保存は難しい。

伊勢神宮では、1,300年も前から、20年ごとに神社の正殿を建て替え、式年遷宮を行うので、建物自体は新しい。しかし、この釘を使わない建築様式は素晴らしいものである。宮大工などの技術は、20年毎に、建て替えるからこそ、連綿と継承されてきたのである。

日本文化の本質は、物を作る技術にある。

欧米では、フルコースの料理

を食べるのに、何本ものナイフとフォークを使う。しかし、日本人は、箸だけで何でも食べられる。欧米では、台所、食堂、居間、寝室は、別の部屋である。日本では、一つの部屋で、ちゃぶ台をおいて食堂とし、ふとんを敷いて寝室とする。日本では、狭い空間を有効に活用する様々な暮らしの知恵が生まれた。江戸しぐさという言葉があるが、都市生活

で相手を尊重し思いやる心に満ちた、生活思想の数々である。

世界的に見ると、地球温暖化や石油の枯渇など、大量消費型の社会から、省資源・省エネルギー型社会への転換が求められている。江戸・東京を通じて、人口密度の高い暮らしから生まれた日本文化は、世界にアピールできる価値があると思う。

伝統文化は、現代にも継承されている。例えば、浮世絵は、ヨーロッパに衝撃的な影響を与えたといわれ、高い木版画の技術があった。浮世絵は、葛飾北斎など、絵師だけの力によるのではない。和紙職人、彫師、摺師など、多くの職人の技術があって生まれたものである。木版画で製作された黄表紙などの本は、絵が多く、今日の漫画へと受け継がれている。近代的なフィギュアも、伝統的な人形づくりの技術を継承している。

そして、「ひらがな」やカタカナなどの文字は、東アジアでは最も早く生まれた表音文字であり、日本の誇るべき文化である。この文字という日本文化を伝える日本語ボランティアの方には、日本文化を良く知り、自分たちの文化に誇りを持って欲しいと思っている。



千代田区有形指定文化財の「神田の家」

# 国際クッキングの紹介

海外部会 小川原 とも子

「国際クッキング」について、準備から実施までの流れに沿って紹介します。

## ① 国と講師を決める——約3ヶ月前

国際クッキングのスタートは、先ず国と講師を決めることです。前回や前々回と地域が重ならないように配慮して決めます。

## ② メニューを決める——約1ヶ月前

講師の方と相談し、3品ぐらいのメニューを決めます。ごく普通の家庭で作られているもの、ということをお大事にしています。

## ③ レシピをつくる——10日位前

4～5人分の材料や作り方をパソコンで打ちます。

## ④ 食材の買い出しをする——前日

ほとんどの食材は、スーパーや八百屋などへ私が買いに行きます。参加者からは材料費として800円を集合するので、その中に納まるようにします。

## ⑤ 国際クッキング——当日

11時から「国際クッキング」が始まるので、10時には公民館に講師の方と着いて、準備をします。米をといだし、食材を分けたり、一部食材の下ごしらえをしたり…。

## ⑥ いよいよ、スタート。

講師紹介の後、参加者に前に集まってもらって、料理の作り方の説明、実演をします。

12時半ごろには、各テーブルとも完成し、盛りつけたら「いただきます。」

料理を作ったり、食べたりしている間に、初対面だった方たちも、うちとけている様子が見られうれしくなります。感想や質問なども自然に出てきて、講師の方の国のことなども語られ、交流が深まります。「使った香辛料はどこで買えますか?」「(講師の国のご主人の家事への関わり度は?)」「教育事情は?」「今度、旅行したいが、いつがベストシーズンか?」等々。国際クッキングを通して、たくさんの心の交流ができていくことがうれしく、励みになります。

## Recipe

【編集部より】これまで紹介されたクッキングの中からレシピを紹介します。すでに多くの人に親しまれている味です。

### ソトアヤム

(鶏肉入スープ/インドネシア) 2001.11

●材料：鶏もも肉(かたまり) 500g、もやし1袋、卵6個、じゃがいも小6個 春雨2袋、長ねぎ(わけぎ) 少々、レモン1個、セロリ葉少々、にんにく5～6個 赤ねぎ5～6個、ピーナツ等3～4個、レモングラス半本、パイマックル1枚、ターメリック小1、塩 こしょう サラダ油 適量

#### ●作り方

- ① じゃがいも、卵をゆでる。もやしは洗って、ひげ根を取る。春雨を湯でもどす。
- ② 赤ねぎ、ナッツ、にんにくを薄く切り、すりばちでつぶす。ターメリックを加え、さらにつぶす。
- ③ 2つの鍋に湯(2リットル、1リットル)をわかし、鶏肉を塊のまま湯(1リットル)に入れ、くさみをとる。
- ④ フライパンを熱し、サラダ油を適量に入れ②を炒める。
- ⑤ 湯(2リットル)に鶏肉を入れ、④も入れ、時間をかけて煮る。
- ⑥ ゆで卵のカラをむき、たて4等分に切る。じゃがいもの皮をむき、5mm幅ぐらいに切る。
- ⑦ 鍋の鶏肉を取り出し、まな板の上にラップを広げ、鶏肉を一口ぐらいに手でさくようにする。
- ⑧ スープを網でこして、じゃがいも、鶏肉、もやし、こしょうを入れて、さらに煮る。
- ⑨ セロリ葉を1cm位にザクザク切りする。レモン8等分、長ネギ小口切りする。
- ⑩ 皿に盛りつける。春雨を皿に入れゆで卵、ねぎをのせスープをかける。セロリ葉を飾り、レモン汁を好みでかける。



# 読むことを通して上級学習者を支援する一つの方法

LTC友の会（杉並区） 山形 美保子

今回は比較的日本語ができる人の日本語力をさらに伸ばすにはどうしたらいいか、私が以前出会った学習者とこんなことをしました、というお話から書いてみます。

## 対象

私達のグループは定期的にボランティアと学習者の組み合わせをローテーションしていますが、去年私が新たに担当することになったのは上級学習者で、上のレベルまでの日本語教育を受け、さらに勉強したいという意欲的な人たちでした。学習内容の希望を尋ねると、読み書きの力を伸ばしたいとのことだったので、毎回新聞から記事を使っただけの学習を考えました。

## 素材選び

似たような話題の記事（700字程度まで）を複数選ぶ。日常生活では出会わないような話題や興味を持ちそうな話題（例：バイオテクノロジー、公衆道徳）など、幅広いジャンルで集める。

## 使い方

学習者それぞれに同じ話題で内容が異なる記事を渡す。  
時間を決めての黙読。記事を見ずに内容が報告できるように準備させる。（5 - 10分）  
報告その1：読んだ記事の要約を、記事を見ずに他の学習者に伝える。

聞き手は質問があれば尋ね、理解を深める。（5 - 10分）

報告その2：先の報告者から聞き取った内容を、聞き手が報告者に逆に伝える。（5分）

報告その1とその2がすべての記事について済んだところで、全員にすべての記事を渡し、担当した記事を学習者各々に音読させる。（5 - 10分）

記事内容について自由に話し合いをさせる。（10 - 20分）

記事に関連したことを自由に作文させ、次週までの課題とする。

## ねらいと効果

話題を広く集めることにより、様々な事柄についての知識や語彙を増やすことができます。

同じ話題でも内容が違うものを読むと、自分とほかの人の読み材料のどこが同じでどこが違うのか、しっかり聞き取ることに意識が向きます。また、一つの話題についての様々な記事を読むと、多様に意見が述べられます。さらに、話し合いに発展させるときに統一感を持たせられます。

要約は高度な力を要しますし、文字を見ながら話すと、どうしても書いてある文に引きずられてしまいます。文章を見ずに、頭に残った内容を自分の言葉でまとめるいい練習になります。



自分が口頭で伝えた内容を、それを聞いた人にさらに逆報告してもらおうと、自分が話したことがどの程度客観的に相手に伝わるかがわかります。

読んだ内容を報告するときは比較的改まった形式で話してもらいますが、お互いの内容を聞き合うときは仲間言葉でかまいません。話し言葉のレベルを変える練習ができます。

音読により、発音指導ができます。読んでもらっている間に間違いの部分にマーカーをつけたりメモをしたりしておく、後でフィードバックがしやすいですね。私はフラッシュカードにして翌週以降、読んでもらいました。

意見文では内容を把握し、筆者の主張を伝える、その後で自分の主観を交えて話し合いをする、この二段構えが狙いです。自分の見方、価値感で読んでしまう人が多いのですが、書き手が何を言わんとしているのかを淡々と掴むことが第一段階ですね。

書く事に慣れていない人は書き言葉、話し言葉の使い分けがうまくできません。特に上級者にはこのあたりのスキルが必要でしょう。

日本語支援と交流を通して

# 北区日本語サロン

代表 永井 芳子(北区)

北区日本語サロンは、TNVNが創立されたのと同年の1993年6月に、中央公園文化センターを会場に日本語の支援と国際交流を目的に発足したボランティアサークルです。

土曜日の午後2時から5時までという時間帯は、社会人として働くIT関係の学習者が一番多く、留学生、就学生、主婦、中・高校生も参加しています。北区は外国人居住者の多くがアジア国籍の人々で、中国、韓国、フィリピン、インド、タイ、バングラデシュ、ベトナムな

どの国々の学習者が交流しながら学んでいます。

発足当初から続けてきた教室形式での学習形態が、学習者の日本語能力差も以前に比べて大きくなり、またニーズも多様化して、少人数でのレベルやニーズにあった学習方法も一部取り入れて対応しています。このためボランティアの確保も課題となり、3月に文化センターが私たちの要望にこたえて、日本語ボランティア体験講座を開催し、TNVNの林川事務局長さんにも講師としてご協力いただき心から感謝しています。



日本語学習支援のほかにも年数回行われる行事があり、お花見、浴衣を着て花火見物、一泊旅行、各国の料理会、全員が協力して行う区民まつりの国際ふれあい広場での出店販売、また日本の伝統文化の歌舞伎や茶道の紹介など多岐にわたっています。交流や一緒に汗を流すことによって、人と人のつながりが生まれ、距離感が縮められるような活動も、日本語支援と両輪をなすものとして続けています。

## 会員団体紹介

# Nice to Meet You

ともに学びあう場

# 西東京にほんご教室

広報・渉外担当 山辺 真理子(西東京市)

西東京にほんご教室NiNICは、1993年に旧保谷市で活動を始めました。2001年に田無市と合併、西東京市になったとき「保谷駅で活動していると思った」という声が多く、名称を変更しました。ところが、拠点としていた公民館が去年保谷駅に移転し、今は「保谷駅前公民館」で活動しています。駅ビル内にあるため、非常に便利になり、外国の方が急増、嬉しい悲鳴を上げています。

設立当初は外国人女性配偶者と日本語学校生、大学生が多かったのですが、ここ数年小さな子ども連れの男性の配偶者がいらっしやることもあり、小中学生の増加とともに時代の変化を感じます。土曜午後の活動なので、最近では中国からの

IT技術者が多く、西東京市ではほとんど会ったことがなかった南米からの日系3世の方の参加に世界不況の影響を感じます。地域の日本語教室は世界のニュースが身近に感じられる場所です。

誰でも、いつからでも参加できる場を開いていることが会の目標です。ほとんど日本語が分からない方には媒介語のできる人がいれば担当し、いなければ、絵カードや実物で対応します。少し話せる

ようになったら小グループで会話を楽しみます。地域の日本語教室の参加者は外国籍の方も日本人も世代から参加動機まで様々です。日本語能力試験を受けたい人にはそういうサポートが好きなボランティア、料理や子育て、ビジネス場面の話などはその経験者や興味のある人同士で話します。人と関わるのに慣れるまで場所取りやお茶の世話を担当したいという方、編集が得意なので会報を発行する

という方、それぞれができることを持ち寄って活動しています。

ともに学びあう場、情報交換の場、お茶を楽しむ場として、これからも場を開いていきたいと思っています。



学習者の声

日本で生活の楽しい思い出

林 文海 / 中国（ピバ日本語の会新橋）

時の経つのは早いです。日本に来てまもなく一年半過ぎました。

日本での生活は親切な日本人に出会って、綺麗な町と美しい環境で生活してだんだん好きになりました。

私は積極的に日本語を勉強できる場所を探して、会話レベルアップのために毎週水曜日新橋で勉強しています。特に、私の発音と文法を直して貰い、前回の日本語能力検定二級に合格出来ました。今年一級を目指します。

私の日本語は日本に来る前より一段と進歩しました。進歩が見えると未来の希望も見え、先生に褒められると日本語学習のやる気が高まります。そして楽しく勉強が出来ます。

私はスポーツが大好きなので、週末になったら、バドミントン、バスケットボール、テニス、プールなど練習に行き、日本人友達と一緒に汗を流して楽しい休日を過ごします。

去年の8月北京オリンピックに行けなかったので、その代わりに記念になる富士登山に行きました。夕方の5時五合目から出発して、朝方3時山頂に着き、御来光を拝む事が出来、運がとても良いと言われ日本に来て一番の思い出になりました。

今年5月に結婚するので、妻と一緒に日本語を勉強しずばらしい日本の生活を過ごしたいと思います。



ボランティアの声

森田宣子 / ピバ日本語教室（港区）

学習者の方から「今日は楽しかったです」

2008年8月からピバ日本語教室にボランティアとして参加しています。ボランティアを始めたきっかけは、英会話学校でインストラクターから日本語を教えることをすすめられたからです。学生時代は英語を習っても話す機会は全くありませんでした。ネイティブの教師と英語を話し始めた頃は大汗をかきましたが、今では生き生きした授業に気持ちが高揚しています。外国人の方にこういう楽しさを感じていただけたらと思い、母校で短期日本語教授法講座に通いました。そしてカトリックのシスターに日本語ボランティアを2年間続けました。さらに日本語の勉強を終え、こ

のピバ日本語教室に通っています。ここ港区という土地柄、大使館関係の方、ご主人の転勤でこられたご家族、留学生などがいらっしゃいます。日本語を初めて学ぶ方、能力試験を目指す方、文法は習ったけれど日本語で話す機会が少ないのでぜひ会話をと言う方など様々な方がおられます。皆さんとても熱心に日本語に取り組んでいます。

一年弱の経験で判ったことは外国人が日本語を習っても、使う機会が少ないということです。初級の日本語を勉強してもそれを実際に話す機会がないと日本語が習得できません。おしゃべりな私も一時間半の時間を学習者の方が日本語をたくさん話し、覚えて帰ってくださるよう心がけています。

ボランティアをしていてうれしいのは、学習者の方から「今日は楽しかったです」という感想をいただいた時です。彼らの笑顔がみえるとこちらもうれしくなります。これからも異文化交流のひとつとして長く続けて行きたいと思っています。



ボランティアの森田宣子さん（右）



### ●TNVNからのお知らせ●

TNVN事務局は2009年度も右記のメンバーで進めて参ります。メンバーは毎週金曜日（第5を除き）交代で事務処理や、訪れる方々へ活動紹介・相談、情報交換・提供を行っています。また定期的にニュースレターの編集・校正・発送作業（3ヶ月毎）を行っています。

活動場所は東京ボランティア・市民活動センター（飯田橋駅隣接のプラザビル10F）です、どなたでも気楽にお立ち寄り下さい、お待ちしております。またスタッフとしてお手伝いして頂ける方を心待ちにしています。

代表：梶村勝利  
（早稲田奉仕園日本語ボランティアの会 / 新宿区）

副代表：岩佐幹彦  
（江戸川平井にほんごサークル / 江戸川区）

事務局長兼会計：林川玲子  
（ピバ日本語教室 / 港区）

会計：床呂英一  
（まちだ地域国際交流協会 / 町田市）

会計監査：矢崎理恵  
（社会福祉法人 さぼと21 / 品川区）[ 新任 ]

スタッフ：岡田美奈子（やさしい日本語 / 江東区）  
小川伶子（初歩日本語 / 練馬区）  
大木千冬（町田日本語の会 / 町田市）  
福井芳野  
（小平日本語ボランティアの会 / 小平市）  
鶴田環恵（在宅）  
大滝敦史（在宅）  
松川彩子（在宅：やさしい日本語 / 江東区）

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日 / 午後2時～4時  
第2、第4 金曜日 / 午後2時～6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

TEL : 03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp

URL : <http://www.tnvn.jp/>

郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数（2009年4月26日現在）

正会員：85団体 協力会員：30名

賛助会員：5団体

●編集/岩佐 幹彦、大木 千冬、  
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利  
床呂 英一、林川 玲子、福井芳野

●レイアウト/鶴田 環恵

### 第16回 TNVN総会 によせて

4月26日(日)午後、セントラルプラザ10階において総会が開催されました。

委任状を出された方々もおられました、出席下さった方々もたくさんおられ、いつになく活発な意見交換がありました。私がボランティアを始めて16年、TNVNの歴史とほぼ重なりますが、入会して間もなくから事務局のお手伝いをさせていただき、多くのことを学ぶことが出来ました。今なおボランティアを続けていられるのは、そのおかげと感謝しております。

今回の総会は際だって盛り上がり、すばらしく、色々な問題について討論され出席者の方々のこれからの活動に、きっと役立つものと信じています。ネットワークの存在もご認識下さったと思われます。今回のニュースに総会の報告がされていますが、欠席された方々も今の様子を推測され、参考になればと思います。

お茶とお菓子でお話も弾み色々な困難をクリアーしてこれからもガンバロウ!! 一同元気が出たことでしょう。皆様の笑顔がスタッフ一同に何よりのプレゼントでした。  
(事務局スタッフ)

## ●Column

### ❖コミュニケーション、第一歩の一助に

インターネットが普及した今では、何かを知るためになくてはならない存在になりました。TNVNのウェブページでは日本語教室を検索してお問い合わせができるようになっていますが、その役割は年々大きくなっていくと感ずります。

そんな中気をつけていることは、掲載させていただいている日本語教室の担当者や、お問い合わせされる学習者やボランティア希望者の皆様にご迷惑をお掛けしないこと。情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

掲載している情報が最新の状態で維持することや、悪用防止のため、お問い合わせ先のメールアドレス、電話番号は非公開とするなど、時代とともに様々な工夫が盛り込まれています。

利便性と情報の保護の両方を兼ね備えることは容易ではありませんが、皆様のコミュニケーションの第一歩の一助となるよう、より使いやすいつツールにしていきたいと思ひます。

(IT担当 A)